

とやま スタジアムランドプロジェクト

みんなでワクワクドキまちづくり

公益社団法人富山県サッカー協会
サッカースタジアム建設特別委員会
2024年12月16日

プロジェクトビジョン・コンセプト

スタジアムを核にしたまちづくりで富山を元気にする

富山の
シンボル

県民がワクワク・ドキドキして、訪れたいくなる富山の新たなシンボルを生む！

関係人口
の拡大

県内外の新たな交流が生まれ、富山の関係人口を増加させる！

魅力ある
まちづくり

富山の都市競争力を高め、持続可能なまちづくりの拠点となる！

～とやまスタジアムランドのイメージイラスト～



事業スキーム

本プロジェクトの事業スキームの方向性として、**公設（一部、民間資金活用）・民営**を前提として検討を行います。また、民間事業者の投資・参画のニーズを把握してコミュニケーションを図り、民設・民営の事業性検証も行いつつ、その可能性も含めて検討を行います。



エディオンピースウイング広島

(事業性検証)



長崎スタジアムシティ

計画地

本プロジェクトの計画地について、昨年度・今年度を実施したアンケート・ワークショップにおける県民の意見を参考として、5つの計画候補地を抽出した上で、8つの評価項目に基づき比較分析を行った結果、「**富山駅東エリア**」を候補地として、**まちなかスタジアム**の検討を進めます。



ロードマップ

今後の計画スケジュールと開業に向けたロードマップを以下に示します。
本プロジェクトへの賛同を幅広く集めるために、署名活動を実施する予定です。
2025年度の詳細計画の検討においては、行政、投資や運営参画の意思を持つ民間企業、地権者などの詳細協議を進めます。
2030年代前半のスタジアム開業を目指します。

計画	スケジュール
始動、本計画の立案	2023～2024年度
署名活動	開始時期を検討中
詳細計画の検討	2025年度
事業主体による事業化	2026年度（想定）～
スタジアム開業	2030年代前半を目指す

→その他、今後の詳細計画検討において、事業性や施設のあり方について、調査・研究を継続して行います。

ビジネスモデル

自ら稼ぐスタジアムとなるために、従来の公費を受けながら貸館を行うモデルから脱却し、収入の間口を増やして**収益基盤の拡大**を図ることが不可欠となります。県内外企業へのVIP・ビジネスコミュニティ機能の提供が重要になると考えています。

従来の収入構造

目指すべき収入構造



施設計画

Jリーグスタジアム基準の「理想のスタジアム」の4つの要件をすべて満たすとともに、**収容人数10,000～15,000人の規模**を前提として、今後、施設計画の詳細検討を行います。

Jリーグスタジアム基準[2024年度]

「理想のスタジアム」の4つの要件

- ⚽ アクセスが優れている
- ⚽ すべての観客席が屋根で覆われている
- ⚽ 複数のビジネスラウンジやスカイボックス、大容量高速通信設備を備えている
- ⚽ フットボールスタジアムである